

教育長	部長	課長	係長	係

## 第 6 回 会 議 録

会議名	知立市文化芸術推進会議
-----	-------------

令和 4 年 3 月 8 日	開催場所	中央公民館中会議室 14時00分～16時00分
出席者・委員	清水裕之、宇納一公、近藤博子、戸谷田知成、三宅隆弘、橘玲子、大橋直樹、野口実佐子、永井淳子、藤澤幸兄、川上陽子、David Hunt、岡松良典 (稲垣英男委員、越智さや香委員は欠席)	
事務局	加塚部長、中野文化課長、近藤課長補佐、竹内主査	
<p>1. 開会</p> <p>2. 委員等紹介</p> <p>3. 会長・副会長選出</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会長に清水委員を選出</li> <li>・副会長に宇納委員を指名</li> </ul> <p>4. 挨拶</p> <p>5. 議事</p> <p>(1) 本計画の進め方について</p> <p>会 長：それでは議事(1)本計画の進め方について、事務局から説明をお願いします。 (事務局：資料に基づき、本計画の進め方について説明)</p> <p>会 長：ご意見・ご質問はありますか。</p> <p>宇 納：知立市史編さんも大詰めだが、知立の文化史について一緒に考えていただける方があれば会議の委員に加えたい。編さん委員は学者が多く、参加は難しいかもしれないが、市史に明るい文化課職員・学芸員でもよい。</p> <p>会 長：事務局いかがですか？</p> <p>近藤真：文化芸術基本条例の中で会議の委員についての条文(第18条)があり、「学識経験を有する者」にあたる。前向きに検討したい。</p> <p>会 長：確認ですが、この会議に市史編さんの委員に来てほしいのですか？</p> <p>宇 納：私も含めて、ここにいる市民代表の委員は市史に明るくないので、そういう見地から一緒に考えていただける方がみえるといいなと思う。事務局側に入っていたいただいてもよい。</p>		

会 長：前向きにということなので、よろしくお願いします。

(2) 知立市文化芸術推進基本計画の推進状況について

(事務局：資料に基づき、知立市文化芸術推進基本計画の推進状況についてについて説明)

会 長：なにかご意見はありますか。

宇 納：資料 2-1-2 について、重点 1「子どもが様々な文化芸術に親しむことができるまち」の「①小中学生美術展の実施」主体は文化協会だが、忙しい教員方に作品の選出・持ちこみ・搬出いろいろやってもらっています。「文化協会・学校教育課」としては？

近藤博：校内での選考等に当たっては学校で、入賞作品の審査は大人の審査員 2 名も加わっています。これからも学校教育課と協力して行っていきたい。

竹 内：主管課等欄は便宜上(表計算ソフトで並べ替えるため)文化協会としているが、学校教育課と一緒にやっていることは承知しています。

宇 納：学校教育課からも意見をいただいているので「文化協会・学校教育課」とした方が良いと思います。

会 長：代表的なところだけでなく、すべて書いた方が良いということですね。

竹 内：主管課等欄は関係課等すべて書くようにしたいと思います。

会 長：複数入る場合にどこが専管かわからなくなるといけないので太字にした方がいいかもしれませんね。また、資料 2-1-1 について、基本施策の複数のカテゴリーにまたがる行事がある場合、主にどこに当てはまるか、わかるようにした方が良くと思います。他に何かございますか？

戸谷田：基本的な評価方法は定量的な評価ですが、将来的に発展していく計画はありますか？

竹 内：文化芸術推進基本計画第 6 章に記載された評価方法に沿った評価を一度は実施し、結果をお示しした後に、この会議の場でよりよい評価方法を検討したいと思います。

会 長：資料 2-1-2 の事業を見れば、やっていることはなんとなくわかりますが、重点 4 や重点 5 は施策に空欄が多くなっており、これをどうするかが課題になると思います。重点 1 も下の方は空欄が多く、これをどうするかという議論がこの場で行われる気がしています。

近藤真：計画である以上、施策数が一つの目安になりますが、増えることが重要ではなく定性的な評価で改善できるようなご意見をいただくことが大事で、定量的な評価は目安と思います。

会 長：そういったことを踏まえて、何か具体的にここが抜けているとか、こうしたらどうだとか、何か前向きな提案があればお願いします。

宇 納：地域の文化人で埋もれてしまう人がいるので、そういう人たちを載せるシートを作っただけだったらと思います。

会 長：文化芸術の範囲を少し広げて、いろいろな人材を拾っていくのも大事なかなと思います。重点 5「多様な情報発信」は空欄が多いので、ここをどうしたらよいかという議論を多分しないといけない。情報発信をきちんとやるには専門の人材が必要。編集者のような、それなりの力を持った人が報酬をもらって仕事としてできる環境をきちんと整えないと、ボランティアや社会教育の方にも無理があると思います。将来的にうまくやれるといいと思います。NPO ですとかいろんな考え方があると思います。推進会議では提言しかできないので、事務局で方針や予算の検討をお願いしたい。岡崎でアートネットを立ち上げた

が、担当者がいないと進まない。やっつけ仕事ではできない。重点4「文化芸術を通じた多文化共生への試み」ですが、わかっているても手が付かないと思います。市民団体や色々な方々とうまく協力してやれるような事業を行政の方で立ち上げていただけたらと思います。全部文化会館でやっていただくわけにはいきませんし、抜けている（施策が空欄）のは抜けているりの理由があると思いましたが。他にご意見ありませんか。

戸谷田：多文化共生について、文化会館でも取り組みは限定的。重点の一つとなった事を契機に、来年度、外国人の子どもたちが多い昭和のエリアに出向いて、子どもたちを対象にコミュニケーションワークショップを実施することになりました。重点施策にふさわしい活動に将来なっていけばと進めています。多文化共生に取り組む部署と連携する機会をいただいて広げていければと思います。

会 長：資料2-1-2の表は施策の抜けているところが良くわかるので、皆様からも施策をご提案いただければよいと思います。

大 橋：校長会ですが、自分の立場で重点1から5まで見ていて思うことですが、特に重点3「障がい者の文化活動の機会の充実」、重点4「文化芸術を通じた多文化共生への試み」について。昭和地区は外国人が多いということで、外国人と日本人の関係、国籍だけではなく年齢、性別全部含めて多文化共生。住みやすくなるように文化に触れさせたい。もう一つ、私の学校は発達支援が多く、学校として精いっぱいやっていますが、一般校なので、文化の面で発達支援、特に知的障害のある子にどう毎日を送らせるかを課題にしています。

会 長：それぞれ、何か関わられるようでしたらご提案いただければと思います。

### (3) 第1回 文化芸術連絡会議の概要について

(事務局：資料に基づき、第1回文化芸術連絡会議の概要について説明)

会 長：今の説明についてご意見伺います。

三 宅：訂正があります。「私のあしながおじさんプロジェクト For Family in 知立」について、リリオ・コンサートホールでは来年度から始まる予定でしたが、今年度1公演行いました。来年度は数公演予定しています。

戸谷田：補足します。もともとは文化会館の取り組みですが、選択肢を広げるためリリオさんの公演も含めることになりました。これもパティオとリリオの連携の形と思っています。

会 長：この連絡会議がうまく機能して、いいネットワークができるといいですね。

中 野：連携して、顔見知りになって、いろんなことができると思います。

会 長：活発にしていきたい。

### (4) その他

(事務局：特になし)

会 長：皆様の方からこれだけは言っておきたいこと等ありますか。

三 宅：来年度のリリオ・コンサートホールの取り組みについてご紹介します。毎月ワンコインコンサートを平日昼間に開催予定。クラシック以外に、演芸ですとか子供向けのサイエンスショーとか、今までリリオでやらなかった公演を予定しています。PRも力を入れていきます。4月のワンコインコンサートには川上委員が出演されます。

会 長：11：30開演というのはどんな感じですか。

三宅：11：30開演、休憩なしで1時間公演。それから町に食事に出ただけで、込み合う時間を避けられるという設定です。11時というコンサートもありますが、リハーサルや調律ができないことがあるので妥協したところです。

会長：コンサートが終わって食べに行くのはあるパターンですね。結果を教えてください。戸谷田さんはいかがですか。

戸谷田：今後控えている事業について、できているチラシをお手元にお配りしました。推進会議の委員の皆さんに現場の事業を見ていただく機会を積極的にご用意した方が良いと思いますので、皆様のご承認くだされば事業にご招待したいと思います。

会長：文化課でうまくアレンジしていただいて。

中野：こちらの方でご案内等させていただきます。

戸谷田：チラシの他に、市内の幼・保・小・中に文化芸術を届ける事業の令和3年度の報告書になります。園長先生・校長先生がよろしければ、どのように子どもたちが鑑賞しているかを推進会議の委員の皆さんにご覧いただきたいと思いますが。

大橋：校長会で図ってみます。コロナが収まれば問題ないかと思います。

戸谷田：皆様にそういった現場を見ていただくことが可能になってきたら、ご案内させていただこうと思います。

永井：今のご発言で思いましたが、障がい者と言っても身体障がい、知的障がい、発達障がい、盲・ろう、様々な障がいがあり、どの芸術が触れやすいのか、どのコンサートが見やすいのか、文字だけではとても分かりにくい。もう一つ、そういったことに触れる環境に縁が薄い人が障がい者は多かったので、私自身が参加できる限り見て、知ったことがいくつかありました。大人でも知的障がいでも能力的には小学校・保育園児並みの人もいます。図書館でおこなわれた紙芝居の会に、知的障がいのある中学生と親子で参加させていただいたことがありました。当時は定員が決まっていなかったようで、今はコロナで人数に厳しいと思いますが、これなら参加できるなという場合でも「未就園児に限る」といったような入りにくい枠がある。障がい者フォーラムを始める時、みんなで楽しめるコンサートを提案したところ、聴覚障がいの方が「コンサートと名がつくところには行かない。」、目の見えない方は「演劇にはいかないと決めている。」という発言をいただき、言われてみればそうだと思います。それでも文化芸術にかかわることができたらという思いでいろいろやりました。やったらやっただけそれなりに楽しかったり、初めての体験に感激されたり。枠がぎゅぎゅうな固いものじゃなく、入り込みやすいフエジーな枠、お試しも含めて、障がいのある側から一步踏み出せるように。学校を通して紹介くださった県立の特別支援学校では、知的障がいのある人たちがプロのアーティストの本物の演奏を結構静かに聞いていました。体験してみることはすごく大切。うちの子には学生時代ほとんどなかったです。昔は余裕が無かったけれど、今は充実してきて支援してくださるようになった。そういうことに触れた子たちが大人になった時に、たとえ障がいがあっても人生観が変わってくるような期待を持っています。知的障がいのある子で学校の教育でいろいろなことをやらせていただいて、カメラが趣味になった子にフェスティバルで発表の機会を作ったら、「僕の作品評判よかったですか？」と、評価を求めていることが分かった。アート展に出して賞をもらうものすごく喜ぶます。少しずつ体験して新たな発見があります。企画するときには参考にしてください。

会 長：大変貴重な意見をありがとうございます。リリオも文化会館も連携をとっていただいて、参加できるか話してもらった方が。

永 井：障がいの方も食べず嫌いのようなもので、機会をたくさん知らせていただきたいと思います。

会 長：チラシに「子ども対象」だったら「知的障がい者も可」と入れるとか。

永 井：難しいけど希望はあります。

戸谷田：リングCさんの役員会に出向いて、情報提供する機会もできています。ご案内させていただこうと思います。

会 長：具体的に動いた方がいいですね。

戸谷田：年に1回のバリアフリー事業と草の根フェスティバルを核に活動を深めていければと思います。

永 井：障がいを持つ側も少し積極的にならないと。控えめな方が多いので、そういう世の中じゃないよと。

会 長：リリオのワンコインコンサートに赤ちゃんは？

三 宅：赤ちゃんは親子室になりますが、コロナ禍で今は使えないことになっています。

会 長：サロンコンサートの時は対象者を書かないで、問い合わせがあった時は泣いたら出ていただくことに、ぐずったらみんな我慢して、いろいろ可能性を考えていただいて。こんなところでよろしいでしょうか？事務局から次回の事について。

近藤真：また、ご連絡させていただきます。

## 6. 閉会

会 長：今日はこれで終了したいと思います。ありがとうございました。